



# 正しき道をいざ行かん 生徒総会

この文章をお読みの方の中には、本校を卒業された方も大勢いらっしゃるかと思います。本校の校歌2番の初めにあるように、「緑の松に風薫る」季節となった先週17日木曜日の午後、今年度の船橋中学校生徒総会が行われました。

生徒総会とは、年に一度全校生徒が一堂に会して行う生徒会活動最大の会議です。すべて生徒の手によって行われ、生徒から議長団を選出して議事進行し、生徒会長を始め各専門委員会の委員長、学年委員長、各部活動の部長が壇上から発表します。

この日総会が始まってすぐ、生徒会長の山口君が話しているときのことです。体育館横の路上を自転車で通った若者同士の怒鳴りあう大きな声が、体育館の中まで響きわたりましたが、山口君は何事もなかったかのように平然と話を進めていきました。実は、これはなかなかすごいことなのです。大人でも1,000人を超える人間を前にしたら、ただ話すだけでも緊張します。ましてや中学生ですから、予想外の出来事にも落ち着いて対応するのはかなり大変なことです。

さらに感心したのは、会場の全校生徒も全く動じないで話を聞いていたことです。けっこう蒸し暑い日だったにもかかわらず、その後も総会が続いている間、生徒達のその姿勢は最後までほとんど変わることはありませんでした。

その理由の一つとして、生徒会長をはじめとする本部役員のメンバーから全校生徒に伝えたい強い「思い」があったからではないか、と私は感じています。会長の山口君が何度も口にした「より良い船橋中」という言葉は、その後の各委員会の活動方針にも反映されていました。さらに3学年委員長の木田明里さんが、最後に「全校生徒へのメッセージ」として以下のように高らかに宣言をしました。

「私たち3年生は、船橋中の代表であることを自覚し、最高学年として1・2年生を支え、誇りをもって卒業できるようにします。1・2年生のみなさんは、私たち3年生を信じてください。必ずより良い船橋中学校を作って巣立って見せます。」

来年3月に自分たちが卒業する日を見据えて今からの生活を送る、という下級生へのメッセージを含めたこの宣言にも「より良い船橋中」という言葉が入っています。

実は、私は総会を終えてすぐに生徒会長の山口哲平君に、より良い船橋中を目指す、というが、君自身はどんな学校を目指したいと思っているのか、と尋ねてみました。すると彼は「失礼かもしれませんが…」と少しためらってから「行事や活動に先生は関与せず、生徒だけでやり遂げられる、そんな学校です。」と答えました。これには本当に驚きました。失礼どころか、それこそが私たちが期待する理想の姿だからです。

総会の後半には、各部の部長から活動予定と目標が発表されましたが、各部の部長の壇上での姿も頼もしく、まさしく校歌3番「希望にあふれ」「凛々しい」姿でした。

子供たちは、毎日の生活の中で足踏みしたり、立ち止まったりすることもあります。しかし、校歌の最後の「正しき道をいざ行かん」の通り、頑張りたい気持ちを胸の奥に秘めています。その気持ちを信じて待つことも必要なのだとあらためて思いました。